

2020～2022年度 香川県小児血清疫学調査 新型コロナウイルスに対する抗体保有状況調査結果報告

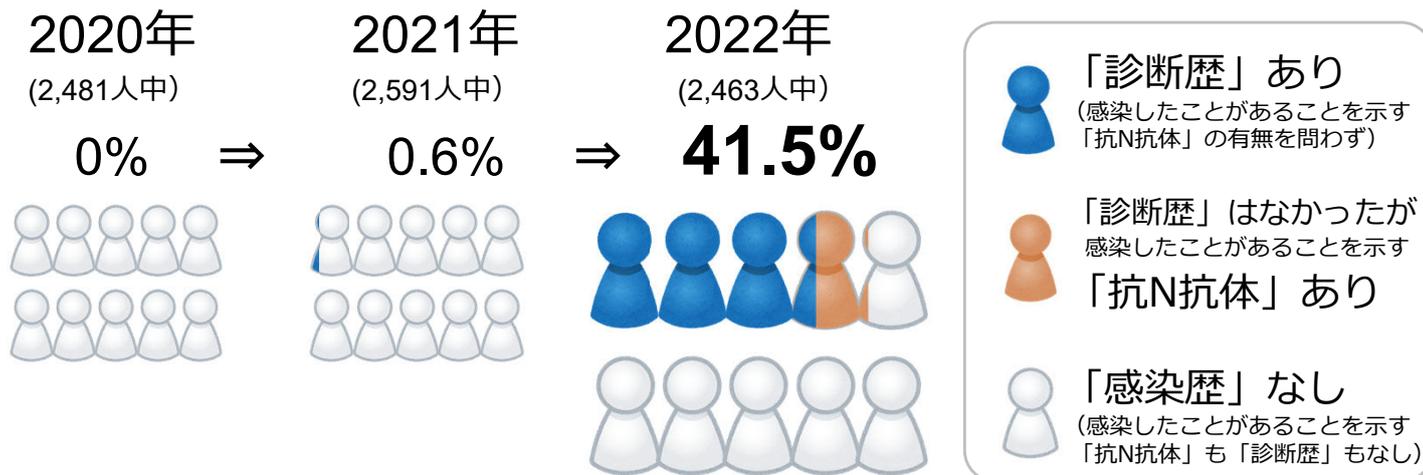
概要：2020～2022年度の小児生活習慣病予防健診を受診した香川県内の小学4年生で、本調査に同意していただいたお子さんを対象に、新型コロナウイルスに対する抗体保有状況を調査しました。

小学生のお子さん方の中での新型コロナウイルスの感染拡大状況、および感受性者（免疫を持っていない人）の割合を把握し対策に役立てることを目的としています。その結果、新型コロナウイルスに感染したことのあるお子さんの割合は、2022年に大きく増加しました。

抗体検査から、過去に感染があったことが分かった方のうち、診断歴がない方も21%含まれていました。

① 新型コロナウイルスの感染歴があったと考えられた小学4年生（9～10歳）のお子さんの割合（*）

2020年からの3年間で、2022年に大きく増加しました



* 各参加者健診受診時点（小児生活習慣病予防健診は各年度5～12月の範囲に実施）。

アンケートで「（健診前の）診断歴あり」との回答（図内青色●）、あるいは、「診断歴」はなかったけれども、感染したときに作られる『抗N抗体』を持っている人（図内うすオレンジ色●）のどちらかに当てはまり、健診受診時点までに『新型コロナウイルスに感染したことがある』と考えられたお子さんの割合。

『抗N抗体』の測定結果と診断歴

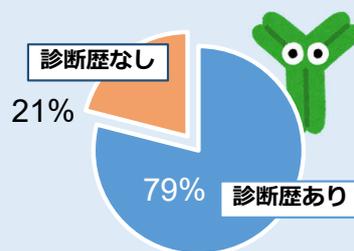
< 2022年度 抗N抗体ありの方（987人）の内訳 >

抗体検査で『抗N抗体』ありの場合、
以前に感染したことがあることを意味します。

2022年度、抗N抗体を持っていた方のうち、

21%のお子さんは診断歴がなく、

気づいていない感染があった方も一定数いたことが考えられました。



② 新型コロナウイルス感染歴・ワクチン接種状況, 2022年度

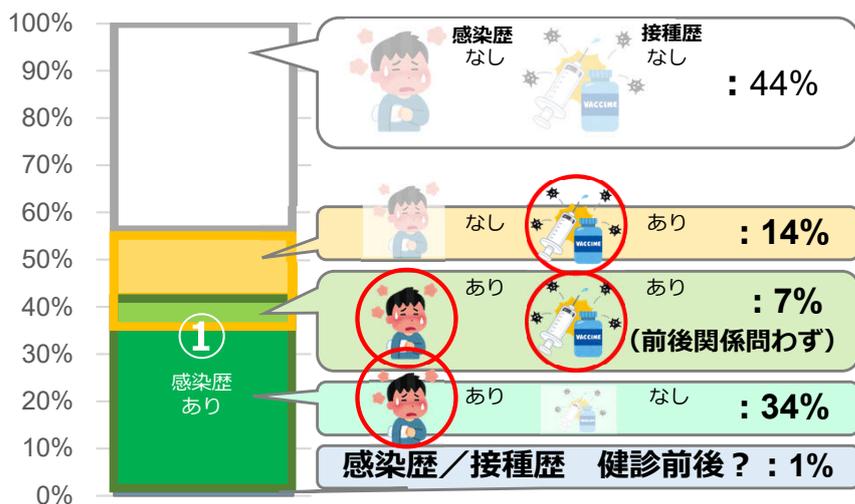


図. 感染歴・ワクチン接種歴別割合, 2022年度 (2,463人)

(アンケート・抗体検査の結果より, 各参加者の健診受診時点)

📢 感染歴・接種歴があると...?

一般に、一度感染したり、ワクチン接種によって、病気の原因となるウイルス等に対して特化した免疫（抵抗力）が前もって得られていると、次にそのウイルス等が体に入ってきたときに、より早く、より強く、体を守る仕組みが働いてくれるようになります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症では、変異株に対しては、一度得た免疫の効果が部分的であったり、ワクチン接種の効果が時間経過とともに徐々に弱まるということが知られています。感染歴、接種歴に関わらず、引き続き、手洗い、咳エチケット、ワクチン等の感染対策も併せて重要です。

2022年調査時点において、約6割の方で感染歴、もしくは、ワクチン接種歴がありました（ワクチン接種（1回以上）を受けた方の割合：21%）

考察 ～本調査結果とこれまで得られている情報から～

2020～2022年度の3年間の調査を通して、2022年は県内で小学生のお子さん方にも新型コロナウイルスの感染が大きく広がり、気づかないうちに感染していた方も一定数いたことが示されました。

本調査と同時期（2022年11月）に、献血（16～69歳対象）の残余血液を用いた抗N抗体保有割合（感染したことがあることを示す）の調査が実施されました。推定値には幅があり、また、対象期間、ご協力いただいた対象者の選定方法などが異なるため、直接の比較は難しいところですが、**香川県では32.6%**（95%信頼区間25.6-40.1%）との結果でした（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/12061-covid19-84.html>）。

新型コロナウイルスへの免疫（抵抗力）の備えとして、**新型コロナワクチンを2回以上接種したことのある人の割合は、成人では高いものの（下記*）、小児では22%**（2023年10月10日公表値；香川県，全国：24%）と依然低い状況です（*65歳以上92.7%，20歳以上の10歳刻み年齢群の各群80%以上，首相官邸ホームページより）。

新型コロナウイルスに感染したとき、お子さんの場合は比較的症状が軽いことが多いものの、まれに重症となることがあることも報告されています。

（参考：新型コロナウイルス感染後の20歳未満の死亡例に関する積極的疫学調査（第二報）国立感染症研究所実地疫学研究センター・感染症疫学センター<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2559-cfeir/11727-20.html>，）

お子さんにおける感染対策と流行状況の把握は今後も引き続き重要であると考えられます。

謝辞：本調査にご協力いただきましたすべてのお子さんとその保護者の皆様、小学校の先生方、市町、県ほか関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

結果の詳細はこちらにも掲載されています：国立感染症研究所 病原微生物検出情報（IASR）2023年12月号

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2502-idsc/iasr-in/12409-526c01.html>

文責：国立感染症研究所感染症疫学センター主任研究官 森野 紗衣子・神奈川県衛生研究所所長 多屋 馨子

本研究は厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 JPMH20HA2007 の交付を受けたものです。